



STEP 3 「音の壁」を確認 10分

- STEP 2 で書き取った英文を、下のスクリプトと照らし合わせて確認してください。間違えた箇所には下線を引いておきましょう。
- 音声を通して聞いて、1. で下線を引いた箇所を確認します。
- 右ページの「音の捉え方」を読んで、音声変化について理解を深めましょう。

STEP 4 「意味の壁」を確認 10分

- スクリプトと右ページの訳を見て、内容を把握します。意味が分からなかった箇所については、スクリプトと訳の両方を四角で囲みましょう。
- p. 028 の「語句解説」を読んで、語句について理解を深めましょう。



15

It can be a little problematic being British and coming from a country which can be referred to in different ways — Britain, Great Britain, the UK and, for most people, England, even though being English only covers a specific nation of people in the UK, and not the Celtic peoples of Scotland, Northern Ireland and Wales, where I come from. [01]

I'm happy to call myself British, but I'm certainly not English, and I don't think of myself as such, even though I often say 'England' as a very quick way of identifying where I come from if people haven't heard of Wales. [05]

Welsh people are extremely patriotic and don't want to be called English. Wales has its own ancient language — quite different from English — with around 580,000 speakers. [10]



16

People have often said to me, 'I drove through Wales very quickly on my way to Ireland!' And that's a shame! Wales is an exceptionally beautiful country — very green, rather like Ireland, though much more mountainous, and just as unspoiled. [15]

I'm from Cardiff, the capital city — a former major port town on the south coast and a very significant place for the export of coal in the 19th century. Now it's the home of the Welsh Parliament, the Millennium Stadium for the rugby, and is a typical UK city in its emphasis on pubs and new restaurants — yes, it's true to say that British food has hugely improved in the last 20 years! I strongly recommend a visit to Wales. [20]

音の捉え方

音声変化を押さえた上でシャドーイング!



今回の素材は、厳密には「ウェールズ英語」というべきかもしれませんが、広い意味での「イギリス英語」の素材でしたね。なまりもなく、ニュートラルで非常に聞きやすい発音でした。スピードもゆっくりでしたので、STEP 5 のシャドーイングを行いやすいと思います。いつもよりじっくりと、繰り返し行い、完成度を上げてみてください。

イギリス英語らしいはっきりした子音

1 行目の *problematic* の発音ですが、b の音をはっきりと破裂させているあたりに、ちょっと新鮮な印象を受けました。イギリス英語は全体的に子音が強めで、このようにパリパリとクリアに発音される傾向があります。また、10 行目の *patriotic* の a の発音は、[eɪ] と [æ] がありますが、ここではイギリス英語で一般的

な [æ] です。

いつもの通り、音声変化にも要注意です。これは自分で気付くことが大切ですので、英文を聞きながら音声変化が起きている箇所を英文スクリプトに書き込みましょう。例えば、16 行目の *just as unspoiled* は、*just* の最後の [t] の音と *as* の [ə] の音がつながって、「ダ」のような響きになり、さらに *as* の [z] の音と *unspoiled* の [ʌ] の音がつながり、「ザ」という音になっていますので、全体的には「ジャスダゼンスポイルド」のように聞こえますね。

また、音と意味の関係にも注意しましょう。話者の気持ちを反映して、普段なら強調されない言葉が強調されたりする箇所もありますよ。例えば、4～5 行目の *and not the Celtic peoples* の *not* や、5～6 行目の *where I come from* の *I* がそうです。

訳 イギリス人であること、そしていろいろな呼ばれ方をする国の出身であることは、いささか厄介なことかもしれません——*Britain*、*Great Britain*、*UK*、そしてほとんどの人にとっては *England*（イングランド）と呼ばれます、*English*（イングランド人）であるというのは、イギリスの中のある特定の民族しかカバーせず、スコットランドや北アイルランド、私の出身地であるウェールズのケルト民族はカバーしないというのに。

私は喜んで自分のことを *British*（イギリス人）と呼びますが、私は決して *English*（イングランド人）ではありませんし、自分のことをイングランド人だとも思っていません。相手がウェールズについて聞いたことがないときには、自分の出身地を手っ取り早く特定する方法として、私はよく「*England*（イングランド）」と言うことはありますが。

ウェールズの人々はとても愛国心が強く、自分たちがイングランド人と呼ばれることを嫌がります。ウェールズには独自の古くからの言葉があり——それは英語とは大きく異なります——約 58 万人の人々によって話されています。

人々はよく私に言います、「アイルランドに行く途中でウェールズをさっと通り過ぎたよ!」と。それは残念なことです! ウェールズは大変美しい国です——アイルランドのように緑が豊かであり、もっとずっと山が多くありますが、同じように手つかずの自然が残っています。

私は首都カーディフの出身です——南岸のかつての主要な港町であり、19 世紀には石炭の輸出にとってとても重要な場所でした。今ではウェールズ議会やラグビーのミレニアム・スタジアムがある地で、パブや新しいレストランを特徴とする、典型的なイギリスの都市です——そうです、本当にイギリスの料理は過去 20 年間で、とてもおいしくなりました! 私はウェールズを一度訪れることを強くおすすめします。